



## シンポジウム開催報告

## 第119回日本精神神経学会学術総会

2023年6月22-24日に開催された第119回日本精神神経学会学術総会において、シンポジウム「周産期メンタルヘルス～今後の発展すべき方向性とは～」に参加してきました。大会初日の朝8時半からのセッションにもかかわらず、多くの方がいらしてくださいました。当学会理事の竹内崇先生と渡邊博幸先生の座長のもと、5人の演者が発表を行いました。倉澤健太郎先生（横浜市立大学産婦人科）は、産婦人科医の立場、そして、厚労省でハイリスク妊産婦連携指導料の導入に関わった経験などから、周産期メンタルヘルスに関する連携の大切さを伝えてくださいました。次に、私の方からは、コンセンサスガイド2017以降、本邦で利用できるガイドラインの中から、薬物療法を中心に最新のエビデンスを共有させていただきました。高橋知久先生（防衛医大精神科）からは、子どもへの虐待に関して、子ども虐待に至る親の精神病理を解説していただいたうえで、精神科医による見立てを支援者間で共有することの大切さを学びました。南房香先生（慶応大学精神科）は、現在改訂中のコンセンサスガイドに新たに組み込まれる周産期心理療法について認知行動療法、マインドフルネス、対人関係療法のエビデンスを紹介いただくと同時に、ご自身の精神科クリニックにおける心理療法の実践経験を話してくださいました。最後に相川祐里先生（済生会横浜市東部病院）から、公認心理師/臨床心理士・助産師の立場として、心理職が周産期メンタルヘルスにおいてできることをお伝えいただきました。様々なことができることのひとつに支援者支援をあげてくださっていたのは興味深かったです。このように様々な観点からの話を聞くことができたのであつという間に時間がたち、会場にいらした方々とも熱心なディスカッションが行われました。周産期メンタルヘルス領域の広がりを感じる時間でした。（理事/根本清貴/筑波大学医学医療系精神医学准教授）



## 多職種で支える周産期リエゾンのバトン ～皆の“育つ”“生きる”を支える～



10月28日(土)29日(日)  
東京都千代田区一橋講堂  
大会長・竹内崇（東京医科歯科大学病院）

## 次回学術集会 第19回日本周産期メンタルヘルス学会

- ▶ おかげさまで50題を超える演題の応募をいただきました！
- ▶ 現在岡野賞候補を選出中です。選出された演者の方にはポスターから口頭発表への変更依頼を通知いたします
- ▶ ワークショップ「ゲートキーパー研修～自殺防止のために支援者ができること」（先着順30名まで）にまだ空きがあります

参加希望の方はお早めにご登録ください！

学会ホームページ <https://procomu.jp/pmh2023/>

事前参加申込は9月30日(土)までです！

## Book Review

## 書評「周産期メンタルヘルスのための いちばんやさしい精神医学」

編著者 安田貴昭（評議員/埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック准教授）

レビューア 清野仁美（理事/兵庫医科大学精神科神経科学講座講師）



周産期メンタルヘルスケアの実践において、「周産期の精神疾患についてもっと知りたい」と思ったとき、「どのように精神科と連携したら良いのかわからない」と困ったとき、ぜひ手にしていただきたい一冊が「周産期メンタルヘルスのためのいちばんやさしい精神医学」です。当学会に所属する精神科医が、精神医学の基本的な考え方や、代表的な精神疾患と対応方法について、周産期ならではの視点でわかりやすく解説しています。

また、本著では、それぞれの執筆者が所属する医療機関での周産期メンタルヘルスケアの取り組みを紹介し、そこで活躍する看護師、公認心理師、薬剤師、ソーシャルワーカーの方々が日々どのように活動されているかをコラム形式で掲載しています。

「発展」編の執筆者の一人である北村俊則先生からは「周産期精神医学や周産期メンタルヘルスは、人生のすべての時間を費やすに値する、深くて広く、また価値のある領域なのです」「いま覚悟を決めたあなた！この領域によこそお越してくださいました！」との熱きメッセージが書かれています。やさしさと熱意が込められた本著をぜひご一読ください。

## 企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 情報関連委員会

新コーナー「Book Review」では今後も学会員が関わった著作などを紹介していきます。ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください。